

TDB 景気動向調査(全国) — 2022 年 5 月調査 —

2022 年 6 月 3 日

株式会社帝国データバンク 情報統括部

https://www.tdb.co.jp

景気動向オンライン https://www.tdb-di.com

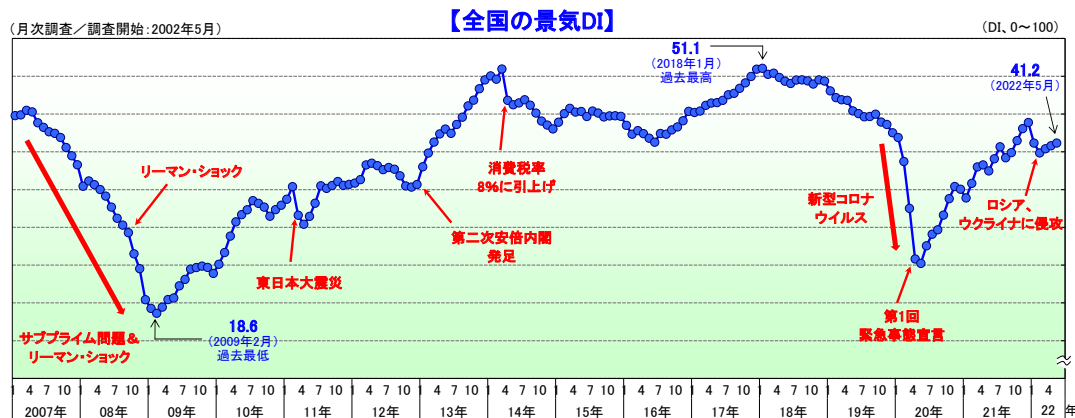
大型連休の人出増加で個人消費関連が持ち直し

～ 中国のロックダウンや部品調達の困難化などで『製造』の生産・出荷が停滞 ～

(調査対象 2 万 5,141 社、有効回答 1 万 1,605 社、回答率 46.2%、調査開始 2002 年 5 月)

調査結果のポイント

- 2022 年 5 月の景気 DI は前月比 0.4 ポイント増の 41.2 となり、3 カ月連続で改善した。国内景気は、海外情勢の影響を受けた工場の稼働停止などもみられたが、個人消費関連の持ち直しが続き、3 カ月連続で上向いた。今後は、下振れリスクを多く抱えながらも、緩やかな上向き傾向で推移すると見込まれる。
- 大型連休もあり『小売』『サービス』など 9 業界が改善した一方、中国ロックダウンの影響で自動車工場の減産、稼働停止が響いた『製造』は悪化した。また、円安や原材料価格の高騰が続くなか、仕入単価 DI は 35 業種、販売単価 DI は 20 業種で過去最高となった。
- 10 地域中 9 地域が改善、『東海』が悪化した。大型連休で主要観光地の人出が増加し、関連する小売業や飲食店などにおける景況感のプラス材料となった。一方、部品調達難は『製造』を中心に下押しした。規模別では「大企業」「中小企業」「小規模企業」の景況感が 2 カ月ぶりにそろって改善した。



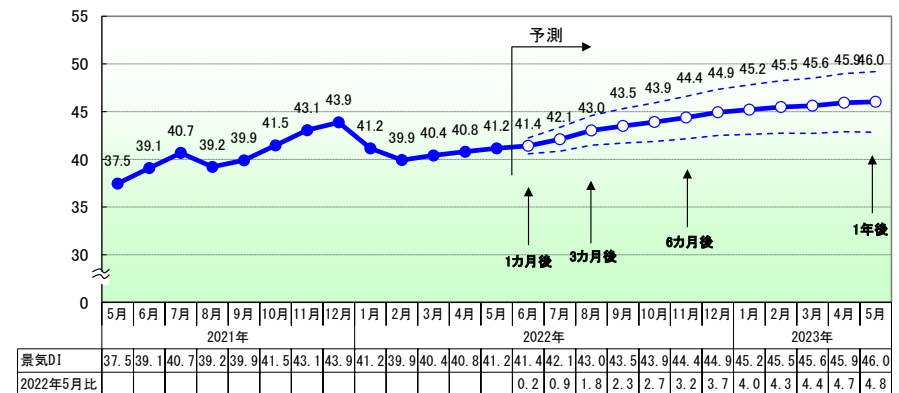
< 2022 年 5 月の動向 : 持ち直し傾向続く >

2022 年 5 月の景気 DI は前月比 0.4 ポイント増の 41.2 となり、3 カ月連続で改善した。

5 月の国内景気は、まん延防止等重点措置の解除や人出の増加などがプラス材料となった。「大型連休の移動も多く活況を呈した」(そば・うどん店) など来客数の増加がみられるなど、厳しいながらも旅行業や旅客運送などを含む個人消費関連の景況感が押し上げられた。一方で、ロシア・ウクライナ情勢など円安や原材料高による輸入物価の歴史上昇、中国でのロックダウンや部品調達の困難化、半導体不足などで工場の稼働が停止するなど、マイナス要因にも多く直面した。また、仕入単価 DI と販売単価 DI は過去最高を更新し、取引価格や販売価格への転嫁が一部でみられた。国内景気は、海外情勢の影響を受けた工場の稼働停止などもみられたが、個人消費関連の持ち直しが続き、3 カ月連続で上向いた。

< 今後の見通し : 下振れリスクを抱えつつ緩やかな上向き >

今後 1 年間程度の国内景気は、ロシア・ウクライナ情勢の行方や円安の進行、原油・原材料価格の高止まりなど、不透明な外部環境の動向が懸念材料となつてこよう。特に、輸入物価の上昇は、企業の収益力や家計の実質購買力の低下をもたらす要因となりうる。他方、新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きがみられるなかで、外出機会の増大にともなう対面型サービスの需要拡大のほか、インバウンド消費需要も期待される。また、半導体需要の増加や挽回生産、値上げへの意識の変化などはプラス材料となろう。今後は、下振れリスクを多く抱えながらも、緩やかな上向き傾向で推移すると見込まれる。



※景気予測 DI は、ARIMA モデルに経済統計を加えた Structural ARIMA モデルで分析。破線は予測値の幅 (予測区間) を示している

業界別:9 業界が改善も、原材料高騰・円安で仕入単価の上昇は継続

・大型連休もあり『小売』『サービス』など9 業界が改善した一方、中国ロックダウンの影響で自動車工場の減産、稼働停止が響いた『製造』は悪化した。また、円安や原材料価格の高騰が続くなか、仕入単価 DI は 35 業種、販売単価 DI は 20 業種で過去最高となった。

・『小売』(36.4) …前月比 2.4 ポイント増。3 カ月連続で改善。「新型コロナウイルス下ではあるが、客数が戻りつつある。大型連休中もそこそこの売り上げがあった」(菓子小売) など、「飲食料点小売」(同 4.1 ポイント増) が改善。「燃料油価格激変緩和補助金で思ったより粗利が取れている」(ガソリンスタンド) など、「専門商品小売」(同 1.8 ポイント増) も政府による物価高対策が奏功した。他方、「新型コロナウイルス下の巣ごもり需要が終わり、その反動がある」(家具小売) など、「家具類小売」(同 4.9 ポイント減) は悪化した。

・『運輸・倉庫』(37.2) …同 0.6 ポイント増。2 カ月連続で改善。「貨物輸送トラックがここ数週間で増加してきている」(普通倉庫) など、普通倉庫が大きく改善。また、「春の学校の旅行シーズンになり、毎日バスが動いている。この傾向は3 年ぶりで、やっと戻った感覚である」(一般貸切旅客自動車運送) といった声も聞かれ、バス・タクシーなどの旅客運送、旅行代理店は依然として厳しい水準も上向いた。他方、「輸入物価の上昇で大幅にコストが上昇も、運賃料金の値上げは不十分で採算割れは解消できない」(一般貨物自動車運送) など、燃料価格の高止まりなどによる輸送コストの上昇はマイナス要因となった。

・『サービス』(44.8) …同 0.3 ポイント増。3 カ月連続で改善。「大型連休の移動も多く状況を呈した」(そば・うどん店) といった声も聞かれ、「飲食店」(同 1.5 ポイント増) や「旅館・ホテル」(同 4.7 ポイント増)、「娯楽サービス」(同 3.3 ポイント増) が上向いた。他方、「まだまだ新型コロナウイルスの影響を受けている。クライアントの会社になかなか簡単に出入りできず、イベント事業も本格的にスタートできない」(広告代理) など、「広告関連」(同 2.1 ポイント減) は3 カ月ぶりに悪化。また、製造業の稼働停止や減産を受け、廃棄物処分業が3 カ月ぶりに悪化した。

・『製造』(41.0) …同 0.2 ポイント減。2 カ月ぶりに悪化。上海でのロックダウン、長期化する半導体不足などにより、国内自動車メーカーの工場稼働停止が相次ぐなか、「輸送用機械・器具製造」(同 0.5 ポイント減)、「化学品製造」(同 0.6 ポイント減) など、自動車に関連する業種が悪化。企業からは「ウクライナ情勢などの外的要因により諸物価、特に電気料金が高騰し、経営を圧迫し始めている。上海などからの部品入荷が悪く、自動車メーカーの稼働も大きく停止している」(工業用プラスチック製品製造) といった声が聞かれ、仕入単価 DI は『製造』12 業種中 10 業種、販売単価 DI も 8 業種で過去最高を記録した。

		21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年 1月	2月	3月	4月	5月	前月比
農・林・水産		37.7	39.1	38.5	37.0	38.1	41.1	42.6	38.2	38.7	36.4	34.8	35.0	37.6	2.6
金融		39.5	41.7	42.8	39.7	41.5	43.0	43.3	43.8	41.9	41.6	42.5	41.1	42.7	1.6
建設		40.0	41.6	42.7	42.5	43.7	44.7	45.4	45.2	43.3	42.5	42.8	41.8	42.2	0.4
不動産		39.4	40.9	41.8	39.4	42.6	43.6	44.7	46.7	42.9	42.6	42.8	43.2	44.7	1.5
製造	飲食料品・飼料製造	33.6	34.0	35.5	32.8	34.1	38.1	39.6	40.8	35.4	33.4	34.2	36.4	37.6	1.2
	繊維・繊維製品・服飾品製造	29.2	29.3	31.0	29.3	28.2	30.2	31.4	34.1	31.6	31.7	33.0	34.6	33.8	▲ 0.8
	建材・家具・窯業・土石製品製造	38.6	40.1	42.5	41.2	42.7	43.7	44.9	46.4	44.1	42.7	41.1	41.7	41.1	▲ 0.6
	パルプ・紙・紙加工品製造	33.5	34.9	37.2	36.6	36.2	39.3	41.4	42.9	40.2	36.4	37.2	40.3	38.3	▲ 2.0
	出版・印刷	24.2	27.1	27.4	25.6	27.1	29.4	30.2	32.1	28.6	29.5	29.6	30.7	30.3	▲ 0.4
	化学品製造	44.3	44.5	46.3	45.0	41.9	42.6	45.7	46.7	44.5	42.3	42.7	42.3	41.7	▲ 0.6
	鉄鋼・非鉄・鉱業	39.9	43.4	46.4	45.1	43.8	44.2	45.9	46.4	44.6	43.8	42.6	42.1	40.9	▲ 1.2
	機械製造	42.2	43.7	45.9	46.6	46.2	47.2	47.8	49.1	47.7	46.7	46.7	45.9	46.9	1.0
	電気機械製造	42.8	45.0	46.8	45.9	45.8	47.5	47.0	48.5	46.6	46.1	44.3	44.8	44.3	▲ 0.5
	輸送用機械・器具製造	45.3	47.1	50.6	48.2	37.6	37.7	43.4	45.6	41.6	39.9	40.0	38.1	37.6	▲ 0.5
	精密機械・医療機械・器具製造	48.7	49.1	50.5	50.9	50.8	50.4	49.8	53.0	52.0	49.5	47.1	46.8	48.2	1.4
その他製造	33.0	34.1	37.6	33.9	35.3	35.5	36.9	41.1	35.9	36.1	35.4	37.3	39.2	1.9	
全 体		39.0	40.6	42.7	41.5	40.7	42.1	43.6	45.1	42.5	41.2	40.9	41.2	41.0	▲ 0.2
卸売	飲食料品卸売	29.4	30.7	31.3	29.1	29.8	33.0	36.9	38.2	32.7	30.1	32.6	36.2	37.3	1.1
	繊維・繊維製品・服飾品卸売	21.7	22.5	22.8	21.2	22.4	24.5	27.4	29.3	27.6	24.9	25.4	28.7	31.4	2.7
	建材・家具・窯業・土石製品卸売	36.5	36.3	37.8	37.7	39.6	39.9	42.6	42.4	40.0	39.7	40.5	38.6	38.1	▲ 0.5
	紙類・文具・書籍卸売	30.6	31.4	31.2	29.2	29.6	31.8	35.0	34.2	32.7	31.9	34.6	33.8	34.2	0.4
	化学品卸売	40.7	42.0	42.4	40.7	42.2	44.2	45.3	45.3	43.2	41.9	43.5	42.3	42.3	0.0
	再生資源卸売	53.4	52.0	53.7	51.4	51.8	53.4	52.9	52.8	45.8	50.5	53.2	54.0	47.5	▲ 6.5
	鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売	37.5	38.7	41.1	41.1	41.6	41.6	43.2	45.2	42.3	40.5	41.1	40.3	40.0	▲ 0.3
	機械・器具卸売	39.0	40.7	43.1	41.3	41.8	42.6	44.4	44.7	42.8	42.4	41.9	42.5	42.0	▲ 0.5
	その他の卸売	32.2	35.5	36.6	33.0	34.4	37.8	39.7	40.1	36.3	33.7	35.5	37.3	37.8	0.5
	全 体		35.3	36.8	38.3	36.6	37.6	39.1	41.3	41.8	39.0	37.7	38.6	39.2	39.4
小売	飲食料品小売	32.6	34.9	37.5	36.0	33.1	38.0	39.7	41.1	36.5	36.3	38.6	37.7	41.8	4.1
	繊維・繊維製品・服飾品小売	21.2	20.3	25.0	21.4	21.5	27.9	34.1	40.0	31.8	23.8	30.6	33.6	33.9	0.3
	医薬品・日用雑貨品小売	29.3	31.4	32.5	33.3	34.6	45.8	37.5	38.4	36.0	32.1	36.8	32.1	38.9	6.8
	家具類小売	40.6	39.8	36.9	34.6	32.2	35.6	34.5	42.9	35.6	29.8	30.6	39.2	34.3	▲ 4.9
	家電・情報機器小売	30.8	35.8	37.7	33.8	33.8	34.6	35.9	35.5	32.3	30.2	33.0	33.7	34.7	1.0
	自動車・同部品小売	38.6	40.7	40.5	36.8	37.2	35.9	37.8	36.5	35.0	33.5	34.7	35.1	37.1	2.0
	専門商品小売	34.5	34.8	34.3	32.6	31.7	32.8	33.5	36.0	33.3	30.9	29.9	31.3	33.1	1.8
	各種商品小売	31.1	33.0	35.6	27.3	33.0	35.9	38.0	37.5	36.2	32.6	34.0	36.4	39.9	3.5
	その他の小売	25.0	33.3	35.7	37.0	35.4	31.7	37.9	43.3	40.0	40.0	43.9	34.7	41.0	6.3
	全 体		33.1	34.5	35.4	32.7	32.6	34.8	36.0	37.7	34.4	31.9	33.3	34.0	36.4
運輸・倉庫		33.7	34.5	36.3	36.0	35.8	37.1	39.1	40.3	37.7	35.5	35.4	36.6	37.2	0.6
サービス	飲食店	13.0	20.5	19.7	14.8	15.2	27.8	31.4	34.7	24.2	16.9	23.8	32.8	34.3	1.5
	電気通信	40.5	27.8	42.9	39.6	41.7	50.0	40.5	41.7	46.7	50.0	48.5	50.0	53.0	3.0
	電気・ガス・水道・熱供給	41.2	45.0	40.8	44.4	45.8	42.6	38.9	39.7	40.0	37.5	33.3	35.7	40.6	4.9
	リース・賃貸	35.0	38.1	41.0	37.4	39.6	43.9	44.9	44.8	42.0	41.0	40.2	42.0	43.3	1.3
	旅館・ホテル	5.6	11.6	13.0	10.0	10.4	22.6	30.2	29.5	12.9	12.8	18.1	28.3	33.0	4.7
	娯楽サービス	29.5	29.2	34.8	29.2	29.0	34.0	36.7	38.4	33.3	31.2	35.1	35.6	38.9	3.3
	放送	42.7	42.2	42.2	38.9	39.2	49.1	48.1	46.9	45.8	47.6	44.4	43.9	43.3	▲ 0.6
	メンテナンス・警備・検査	40.8	42.7	41.9	41.6	44.0	44.3	45.3	45.7	42.3	40.2	42.3	43.1	42.5	▲ 0.6
	広告関連	23.4	27.5	27.5	26.8	29.5	32.4	36.8	37.7	32.7	31.5	36.4	36.9	34.8	▲ 2.1
	情報サービス	44.9	46.8	48.2	46.7	48.5	50.5	51.2	52.5	50.1	50.2	51.1	50.8	50.8	0.0
	人材派遣・紹介	35.5	36.2	41.9	38.4	41.9	39.7	44.3	43.3	45.1	41.5	44.4	45.7	47.6	1.9
	専門サービス	41.5	43.4	47.3	44.4	45.5	47.9	49.2	50.3	47.2	46.2	46.9	48.1	48.1	0.0
	医療・福祉・保健衛生	39.2	41.2	42.1	41.1	41.4	42.8	45.7	43.2	42.4	41.0	42.5	44.5	44.4	▲ 0.1
	教育サービス	37.1	38.7	40.3	37.5	39.0	43.5	39.1	43.2	39.7	40.2	37.8	39.6	35.6	▲ 4.0
	その他サービス	35.2	35.8	37.4	34.7	39.2	40.6	41.7	42.4	39.3	36.9	39.3	42.1	42.7	0.6
	全 体		37.5	39.7	41.5	39.1	41.1	43.6	45.3	46.1	42.8	41.4	43.1	44.5	44.8
その他		33.3	35.5	34.7	35.3	35.6	38.0	39.6	40.5	36.3	37.3	38.7	36.8	38.1	1.3
格差 (10業界別『その他』除く)		6.9	7.2	7.4	9.8	11.1	9.9	9.4	9.0	8.9	10.7	9.8	10.5	8.4	▲ 0.6

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

規模別:全規模が2カ月ぶりにそろって改善、店舗への来客が増加

- ・「大企業」「中小企業」「小規模企業」の景況感が2カ月ぶりにそろって改善した。人出の増加で店舗への来客数増加や、住宅の新設工事、物流量の増加などがプラス材料となった。
- ・「大企業」(43.5) …前月比0.4ポイント増。2カ月ぶりに改善。DXに関連したソフト開発の受注が活発な「情報サービス」が大きく改善、好調な動向が継続している。また、外出自粛が緩和するなかで不動産管理や不動産代理業の景況感が上向いた。
- ・「中小企業」(40.7) …同0.4ポイント増。3カ月連続で改善。燃料油への補助金でガソリンスタンドが堅調だったほか、店舗への客数増加などもあり『小売』の景況感が改善した。また、マンションなど住宅の新設工事が好調な『建設』が2カ月ぶりの改善となった。
- ・「小規模企業」(39.5) …同0.6ポイント増。3カ月連続で改善したものの、5カ月連続で40を下回った。酒類や飲料を含め小規模なトラック運送への発注量が増加した。一方で、燃料費の高騰や商品の値上げなどによる影響を受けたという声も多く聞かれた。

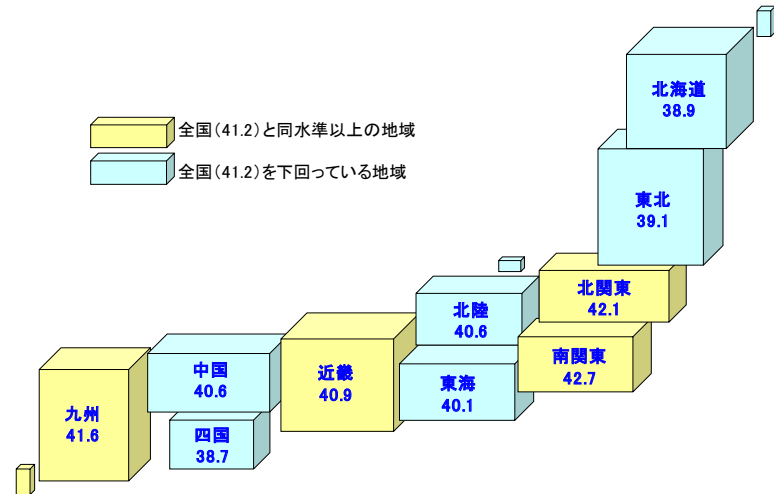
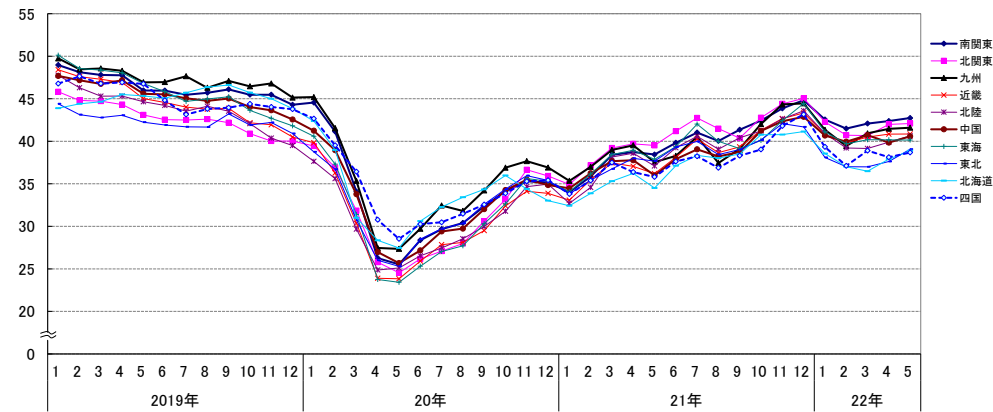
	21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年 1月	2月	3月	4月	5月	前月比
大企業	40.2	41.9	42.9	41.4	42.5	43.8	45.7	45.9	44.0	42.9	43.4	43.1	43.5	0.4
中小企業	36.9	38.5	40.2	38.8	39.4	41.0	42.5	43.5	40.6	39.3	39.8	40.3	40.7	0.4
(うち小規模企業)	35.6	37.1	38.4	37.4	38.7	40.0	41.3	42.1	39.1	37.9	38.4	38.9	39.5	0.6
格差(大企業-中小企業)	3.3	3.4	2.7	2.6	3.1	2.8	3.2	2.4	3.4	3.6	3.6	2.8	2.8	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

地域別:10地域中9地域が改善も、海外情勢が地域経済に影響

- ・『東北』『北陸』など10地域中9地域が改善、『東海』が悪化した。まん延防止等重点措置の解除や大型連休で主要観光地の人出が増加し、関連する小売業や飲食店などにおける景況感のプラス材料となった。一方、部品調達難は『製造』を中心に下押しした。
- ・『東北』(39.1) …前月比1.5ポイント増。2カ月連続で改善。域内6県すべてが改善した。「スマホ向け電子部品の仕事が減らない」(鉄鋼・非鉄・鋳業)などの声もあるように、電気機械などを中心に『製造』が好調で全体を押し上げた。
- ・『北陸』(40.6) …同0.7ポイント増。2カ月連続で改善。「富山」が5カ月ぶりに改善したほか、「石川」「福井」も2カ月連続で上向いた。主要観光地における大型連休中の人出増加がプラス材料となった。特に『小売』は来店客数も増え大幅に改善した。
- ・『東海』(40.1) …同0.1ポイント減。3カ月ぶりに悪化。「岐阜」「三重」が改善した一方、「愛知」「静岡」が悪化した。中国ロックダウンなどで部品調達に支障が表れた化学品や自動車部品など『製造』が全体を下押しした。また大規模漏水の影響も一部でみられた。

地域別グラフ(2019年1月からの月別推移)



	21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年 1月	2月	3月	4月	5月	前月比
北海道	34.5	37.1	38.3	38.0	38.5	40.8	40.8	41.1	38.6	37.0	36.5	37.9	38.9	1.0
東北	37.7	39.3	40.0	38.4	39.0	40.2	42.1	41.7	38.1	37.0	37.0	37.6	39.1	1.5
北関東	39.5	41.2	42.7	41.5	40.4	42.8	44.4	45.0	42.3	40.7	40.7	42.0	42.1	0.1
南関東	38.4	39.8	41.0	40.0	41.4	42.4	43.9	44.8	42.6	41.5	42.1	42.4	42.7	0.3
北陸	37.1	39.2	40.6	39.1	40.4	41.2	42.6	43.6	40.9	39.2	39.2	39.9	40.6	0.7
東海	37.9	39.4	42.0	40.0	39.1	40.1	42.4	44.4	41.1	39.7	40.2	40.2	40.1	▲0.1
近畿	36.2	38.1	40.3	38.7	39.3	41.3	42.7	43.3	40.8	39.8	40.5	40.8	40.9	0.1
中国	36.0	37.9	39.0	38.2	38.7	41.2	42.3	42.9	40.7	40.0	40.7	39.8	40.6	0.8
四国	35.8	37.6	38.2	36.9	38.3	39.0	41.8	43.2	39.3	37.1	38.9	38.1	38.7	0.6
九州	37.5	38.3	40.5	37.4	39.1	42.0	44.3	44.5	41.3	39.5	40.9	41.5	41.6	0.1
格差	5.0	4.1	4.5	4.6	3.1	3.8	3.6	3.9	4.5	4.5	5.6	4.8	4.0	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

業界別の景況感企業の声1(農・林・水産～製造)

業界名				現在	先行き
	3月	4月	5月		
農・林・水産	34.8 ↓	35.0 ↑	37.6 ↑	○ 外国産材の不足により、国産材の需要が高まっている(森林組合) ○ 新型コロナ前に戻ってきている。人の流れも回復し、飲食業に活気がある(養鶏) △ 新型コロナウイルスの規制がなくなり、人流が活発になった。しかし、原材料価格の高騰と円安などのコストアップの影響が大きい(酪農) × 知床の観光船事故による観光客の減少(漁業協同組合)	○ 徐々にではあるが外食産業も動き始めており、期待が持てる(肉用牛生産) ○ 国産の農作物への需要が高まる(施設野菜作農業) × 生乳生産の抑制と、生産費用の高騰による影響を大きく受ける(畜産サービス) × ロシアのウクライナ侵攻の解決に目処が立たないなか、飼料をはじめとする仕入単価が上昇しており、製造原価を圧迫する(養鶏)
金融	42.5 ↑	41.1 ↓	42.7 ↑	○ 不動産市況は引き続き好況(証券投資信託委託) ○ 新型コロナウイルスの影響低下にともない、資金需要が拡大(事業者向け貸金) × 新型コロナウイルスの長期化に加えて、ウクライナ侵攻により世界経済に不透明感がある(商品投資) × 感染者数がなかなか減少せず、以前のように戻っていない(クレジットカード)	△ 建築費や資材価格の上昇がどの程度不動産市況に影響するのか予測できず、1年後の景況感について判断し辛い(証券投資信託委託) × 原材料費の高騰や物流混乱の悪影響が予想される(事業者向け貸金) × 新型コロナウイルスによる自粛の影響と、ロシアのウクライナ侵攻などによる物価上昇の影響もあり、先行きが不透明(クレジットカード)
建設	42.8 ↑	41.8 ↓	42.2 ↑	○ 住宅リフォームの問い合わせが増えている(木造建築工事) ○ 大手企業の工場での設備入替や改装にともなう設備移動などで、数字が上昇している(冷暖房設備工事) ○ マンションのフルリフォームの引き合いが多い(内装工事) ○ 光通信を中心として、工事が旺盛(電気通信工事) △ 公共事業の大型案件は多いが、ランクによって案件の量に差がある状態。下請業者も手がいっぱい、不落札になる案件も出ている(給排水・衛生設備工事) × 少ない案件に競合が集中し、成約となるものが少ない。数少ない小口改修工事でも資材・輸送費などコストの上昇により、採算が悪化している(建築工事) × 資材高騰のため、公共・民間の受注取り消しが増えている(土木工事)	○ 取引先に輸出企業が多いので、円安が続く限り好調は続く(建築工事) ○ 防衛費の増額や航空機産業が活発になると予想される(木造建築工事) ○ 企業の停滞していた投資の話が出始めた(一般土木建築工事) △ 中心部再開発が始動し始めて今後数年は忙しい予定。しかし、技能者の減少が進み、今後の仕事量と釣り合わなくなっている(左官工事) × 4月までの契約額が、5月以降減少気味。上海からの設備機器受注ストップなど、ゼロコロナ政策の影響が懸念される(内装工事) × 資材・機材の値上げが相次いでいる。請負に値上げ分を受け入れてもらえるまで時間がかかる(一般管工事) × 半導体不足と5G整備の延期、発注の減少(電気通信工事)
不動産	42.8 ↑	43.2 ↑	44.7 ↑	○ 地価が上昇傾向で、投資家、不動産会社を中心に購入意欲が旺盛である(不動産代理・仲介) ○ 商業施設などで人の動きが活発(不動産管理) × 海外からの調達資材の入荷遅れが影響している(建物売買) × 個人消費は回復傾向が見えるが、新型コロナウイルスの影響で、テナントの退店スピードが入店を上回る状況が続く施設が多い(貸事務所)	○ 釧路地域は、日本最大の食糧生産拠点の要に位置しており、ミートショックなど海外からの食糧輸入制限にともない地域価値が見直され、大手各社による食料関連産業の工場、物流倉庫の建設が増えている(貸家) ○ 購入希望者が増加する傾向にある(土地売買) × 物価高で住宅価格が上昇。住宅購入の国の補助等、すまい給付金、こどもみらい住宅支援事業がなくなり、また住宅ローン減税の率も減った(不動産代理・仲介)
製造	40.9 ↓	41.2 ↑	41.0 ↓	○ 継続的にマルシェが運営され、顧客が戻ってきている(野菜果実缶詰等製造) ○ 発注数量が増え、各社に対しての工賃アップが通った(成人男子・少年服製造) ○ 自動車関連は不安定な受注状況だが、半導体関連の受注は確実に増加傾向にあり、全体的には良くなっている(機械工具製造) × 新型コロナウイルス、ウクライナ侵攻、半導体不足で客先支給品の入荷が遅れ、工程が進まない。仕入価格高騰も販売価格に転嫁できない(自動車車体製造) × ウクライナ情勢などの外的要因により諸物価、特に電気料金が高騰し、経営を圧迫し始めている。上海などからの部品入荷が悪く、自動車メーカーの稼働も大きく停止している(工業用プラスチック製品製造) × 紙やインクなど原材料の大幅な値上げがみられる一方、同業者間の競争が激しくすぐに価格転嫁できない状況(印刷)	○ 6カ月後には国内生産に回帰した部品の製造、供給が始まり製造業が活気を取り戻す(プリント回路製造) ○ 万博やIR、また交通機関の駅が新設され、その周辺の設備投資に期待している(家具装備品製造) ○ 現状では6月以降の受注内示は、新型コロナウイルス前以上の数値がでている(自動車部分品・付属品製造) × 原木仕入れの見通しがわからない(一般製材) × 主原料の小麦粉、そば粉の価格暴騰、資材、燃料、物流経費の上昇、販売ボリュームの減少が業績に大きな影響となる(めん類製造) × 製品の単価設定が現状年1回のみのため、2023年3月まで価格改定の機会がない(工業用プラスチック製品製造)

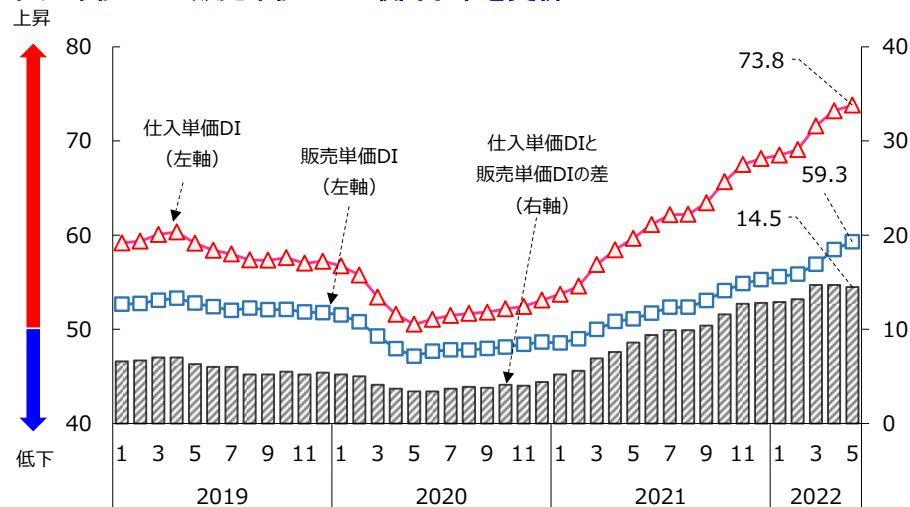
【判断理由】○=良いと判断した理由△=どちらでもない理由×=悪いと判断した理由

業界別の景況感企業の声2(卸売～サービス)

業界名				現在	先行き
	3月	4月	5月		
卸売	38.6 ▲	39.2 ▲	39.4 ▲	○ 飲食店などの顧客の状況が徐々に変化してきた(食肉卸売) ○ まん延防止等重点措置が解除されて、人の動きが出てきた影響で若干の好転がみられる(婦人・子供服卸売) ○ 電子帳簿保存法、インボイスの法改正でニーズがある(文房具・事務用品卸売) × 資材の高騰と住宅設備の不足で、かなり売上が下がっている(建築材料卸売) × 原油価格の高騰と円安により仕入価格が上昇する一方、販売価格に上昇分を完全に転嫁できず、利ザヤが縮小し厳しい状況が続いている(石油卸売) × 自動車関連がTier1～3含め度重なる減産で、在庫が大幅増。高炉メーカーの一方的な値上げ通達、納期の不遵守もある(鉄鋼卸売)	○ 新型コロナウイルスが落ち着き、外国人旅行者が増え、外食産業の景気が少し回復してくることを期待(食肉卸売) ○ 新幹線の開業に向かって明るい兆しがみえている(事務用機械器具卸売) ○ 7月以降、もう一段の値上げを予定しており、当面増収トレンドを見込んでいる(建築材料卸売) × 通信販売との価格競争にさらされている(文房具・事務用品卸売) × 為替差損を販売価格に転嫁することが難しい(薪炭卸売) × 半導体・部品供給の遅れが改善されない(自動車部品・付属品卸売) × 原価の高騰が不安材料(化粧品卸売)
小売	33.3 ▲	34.0 ▲	36.4 ▲	○ 飲食店への酒類販売が新型コロナウイルス前の7～8割戻ってきていることと、今のところ店頭販売も順調に推移している(酒小売) ○ 新型コロナウイルス下ではあるが、客数が戻りつつある。大型連休中もそこそこの売り上げがあった(菓子小売) ○ 特殊要因だが、キャンピングカー効果がある(中古自動車小売) ○ 燃料油価格激変緩和補助金で思ったより粗利が取れている(ガソリンスタンド) × 新型コロナウイルス下の巣ごもり需要が終わり、その反動がある(家具小売) × 半導体不足などの原材料不足や、中国ロックダウン・ウクライナ侵攻の影響で、商材不足や原価の高騰が慢性化してきている(家庭用電気機械器具小売)	○ 新型コロナウイルスが収束し、地域夏祭りや年末年始の動きを期待(菓子小売) ○ 新型コロナウイルスに起因する行動制限が、大きく緩和される見通しがついてきている(婦人・子供服小売) ○ 円安傾向でインバウンドや大企業は良くなる(スポーツ用品小売) × 商品の半導体、部品の不足により、入荷ができない。先行きの入荷の不透明さが、今後の販売に大きく影響する(家庭用電気機械器具小売) × 新車納期の停滞や遅延が続くと見込んでいる(自動車(新車)小売) × ウクライナ情勢と円安による原油価格の高騰。中国、アジアの供給網の崩壊にともなう半導体不足と、海外生産部品の調達不能による商品の欠品(燃料小売)
運輸・倉庫	35.4 ▼	36.6 ▲	37.2 ▲	○ 貨物輸送トラックがここ数週間で増加してきている(普通倉庫) ○ 春の学校の旅行シーズンになり、毎日バスが動いている。この傾向は3年ぶりで、やっと戻った感覚である(一般貨物旅客自動車運送) ○ 原材料費、燃料費の高騰により、値上げの依頼に対し、顧客にも理解を頂いており、収益の改善に繋がっている(港湾運送) × 円安、原油をはじめとする輸入物価の上昇で大幅にコストが上昇も、運賃料金の値上げは不十分で採算割れは解消できない(一般貨物自動車運送) × 海外旅行再開の見通しが立ったものの、足元の海外旅行売り上げはゼロであり、回復にはまだ時間と不確実性がある(一般旅行)	○ ウィズコロナで経済活動の全再開を見込み、さらに設備投資と物量の増加を期待。原油・資材高は続くも円安はピークアウトを想定(一般貨物自動車運送) ○ 新型コロナウイルスによる経済活動の抑制が徐々に解除され、人の動きが活発になる(一般乗用旅客自動車運送) × 必要以上の経費の膨らみにより設備投資への資金が捻出できない(組立こん包) × 原価の上昇に対して、即座の対応が難しい(こん包) × 運賃は落ち着いてきたものの配船スケジュールの乱れが継続。燃料価格の高騰で仕入価格は横ばい増加。その状況が続く見込みで、夏頃から国内業者も値上げする方向で、全体的にコストが上がることになる(運輸に付帯するサービス)
サービス	43.1 ▲	44.5 ▲	44.8 ▲	○ 大型連休の移動も多く活況を呈した(そば・うどん店) ○ インバウンド需要を除けば、レジャー需要は新型コロナウイルス前の水準にほぼ復調。ビジネス需要も堅調で、案件数も増加傾向にある(自動車賃貸) ○ 新型コロナウイルスによる経済の停滞も徐々に回復しており、政府のDXへの取組みなどもあり、案件が動き出している印象をうける(ソフト受託開発) ○ 慢性的な人手不足が続いており、堅調に推移している(労働者派遣) × 連休中は回復していたが、連休明けから動きが悪い(旅館) × まだまだ新型コロナウイルスの影響を受けている。クライアントの会社になかなか簡単に入出入りできず、イベント事業も本格的にスタートできない(広告代理) × プラスチック新法施行の影響がある(産業廃棄物処分)	○ 感染対策は継続も外出自粛の緩和が感じられ、先行きの不透明が若干解消され希望につながりつつある(一般食堂) ○ 新型コロナウイルスが収束に向かうと期待している(旅館) ○ 先は見通せないがウィズコロナが定着し、これまで不振だった旅行、宿泊、飲食関連が持ち直してくると見込んでいる(広告代理) ○ 1年後はインボイス制度もありシステム投資が増えてくる(ソフト受託開発) × 半導体および自動車部品生産不足による、自動車供給の遅れが業界全体の足を引っ張ることになっている。今後3年以上は続く(自動車一般整備) × 資材の高騰で公共事業に占める材料費が上がり、公共事業の発注件数が減ることが見込まれる(土木建築サービス)

【判断理由】○＝良いと判断した理由△＝どちらでもない理由×＝悪いと判断した理由

仕入単価DIと販売単価DIは最高水準を更新



注1：仕入（販売）単価DIは前年同月と比べて仕入（販売）単価が上昇したか、低下したかを表している。「50」が判断の目安となり、「50」を上回れば仕入（販売）単価が前年と比べて上昇していることを表す。
 注2：棒グラフは、仕入単価DIと販売単価DIの差分を表している。この差が大きいほど、仕入単価の上昇を販売単価へ転嫁できていないことを示している。

業種別の仕入単価DI～2022年5月調査、上位10業種～

51業種	仕入単価DI	過去最高	販売単価DI	過去最高
1 鉄鋼・非鉄・鋳業	82.0	☆	63.8	☆
2 パルプ・紙・紙加工品製造	80.9	☆	61.2	
3 電気・ガス・水道・熱供給	80.6		63.9	
4 鉄鋼・非鉄・鋳業製品卸売	80.2		73.0	
5 飲食店	79.6	☆	60.9	☆
6 化学品製造	79.4	☆	62.7	☆
7 建材・家具・窯業・土石製品製造	78.6		62.5	
8 機械製造	78.0	☆	58.8	☆
9 飲食料品・飼料製造	78.0	☆	58.6	
10 繊維・繊維製品・服飾品製造	77.9	☆	60.2	☆

原材料価格の上昇に関する企業の声（抜粋）

原材料の高騰高止まりと、材料不足による仕入価格の高騰に対し、価格転嫁が間に合わないのが現実である（化学製品卸売）

コロナ・ウクライナ情勢・円安などによる原材料、資材の値上げがコストを引き上げている。しかし、量販店などの値上げに対する抵抗が強い。価格上昇が川下で止められ、採算の急激な悪化を招いている（食料品製造）

上海ロックダウンの影響による電気部品などの欠品や長納期化など、品薄をきっかけにした原材料の価格上昇が生じている（金属加工機械製造）

木材を中心に住宅資材が高騰したため住宅価格が高くなり、施主が購入を延期・中止している。また、給湯器やトイレなどが入荷しないため、家を建てられない（木材・竹材卸売）

軽油・アドブルーの高騰に加え、トラックや部品の価格も高騰している。買い替えの為、大型トラックの見積りをとったが、500万円程度の値上がりがある（一般貨物自動車運送）

金相場高値継続、真珠・ダイヤモンド相場の高騰により、小売価格も値上げせざるを得なくなっている。平常時の来店客数も減少しており、今年は一層厳しくなっている（貴金属製品小売）

原材料価格の高騰により、製品値上げを交渉中だが、下流工程の主力企業との交渉が進まずに難航している（非鉄金属製品製造）

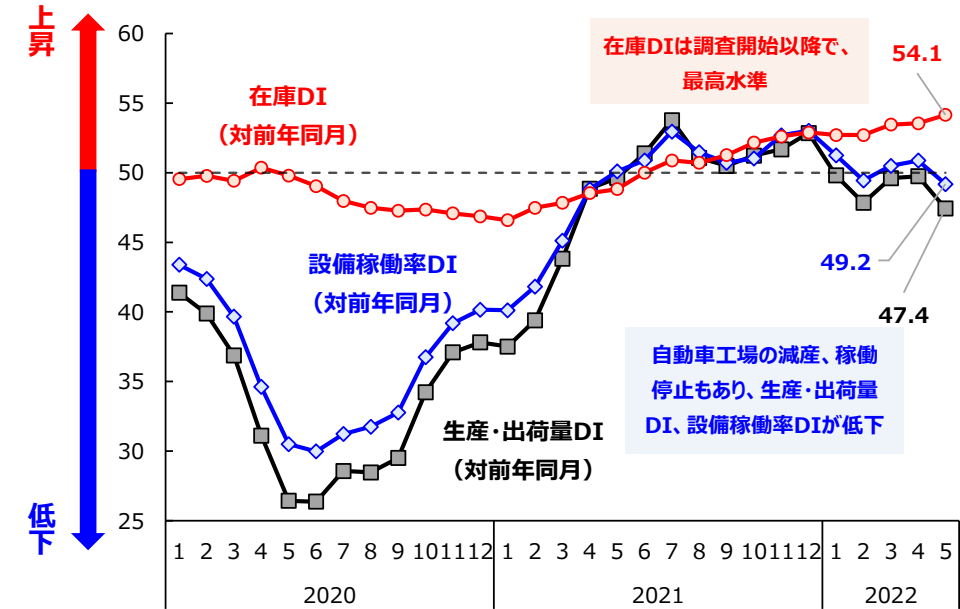
原燃料価格の高騰や国際物流費上昇、ロシア・ウクライナ情勢による影響など不安要素が複数ある（各種商品卸売）

工事案件は少しずつ回復しているが、パンデミック以前の水準には程遠い。さらに木材、金物等の材料費が高騰しており、そのコストアップ分を転嫁し難いことから、利益率を相当に圧迫している（不動産代理・仲介）

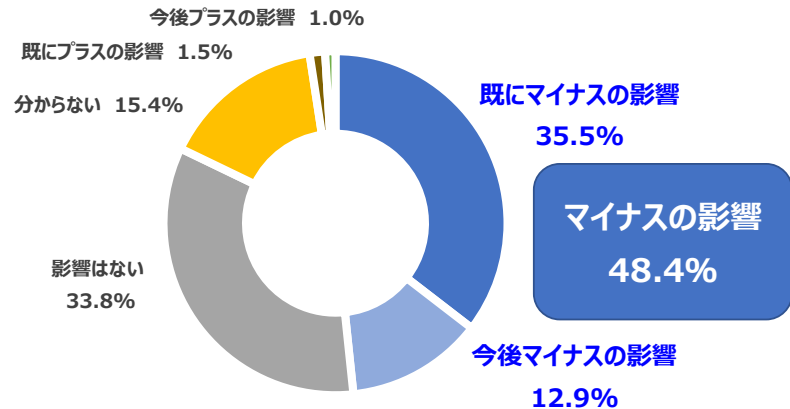
自社に限らず、原材料価格の高騰を価格転嫁できるようになってきており、採算性が改善している（石油化学系製品製造）

中国ロックダウンの影響で、『製造』を中心として国内景気の下押し要因に

『製造』の生産・出荷量DI、設備稼働率DI、在庫DI



中国ロックダウンで企業の半数が『マイナスの影響』



出所：帝国データバンク「＜緊急調査＞中国ロックダウンの影響に関するアンケート」（2022年5月17日発表）

自動車生産に関する企業の声

自動車に関する企業の声	業種
自動車減産の影響が大きい。これまでの新型コロナウイルス禍においても何とか堅調な売り上げを維持してきたが、自動車減産および上海ロックダウンによる自動車販売の減少が影響し、売り上げが大幅に落ち込んだ。加えて円安とLNGおよび電気代の高騰が製造原価の急上昇を生み、大幅な赤字が続いている。	綿状繊維糸染色整理
食品関係は新型コロナウイルスの影響が薄れ始め、回復傾向が感じられるが、精密部品や自動車部品関連などの部品メーカーはサプライチェーンの混乱や、原材料の高騰で生産が伸びていない。	段ボール箱製造
主要得意先である自動車メーカーの生産が、半導体不足や中国のロックダウンによる部品不足により減産が続いている。	工業用ゴム製品製造
上海ロックダウンの影響で自動車メーカーのラインが止まって売り上げが激減している。	工業用プラスチック製品製造
度重なる自動車メーカー工場の稼働停止により受注計画が減り、振り回されている。	金属熱処理
上海のロックダウンの影響により自動車業界は非稼働が続いている。	アルミニウム・同合金プレス製品製造
自動車生産の減少にともなう部品の生産調整。	金属プレス製品製造
自動車関連が上海ロックダウン影響による減産が続いている。5月は大手自動車メーカーの操業停止日数が多いため特に影響が大きい。	鍛工品製造
部品、物流の不足や価格高騰、ウクライナ侵攻に加えて、さらによくない状況が追加されている。上海ロックダウン、自動車の再度の減産、愛知県では西三河地域の漏水問題などがある。	機械工具製造
輸送用機器部品加工の二次下請け企業。発注の大元である輸送用機器業界、特に自動車メーカーが部品調達不足の影響から操業停止、減産を実施。その影響が徐々に下請け企業に波及して、生産が減少し始めている。	内燃機関電装品製造
顧客である自動車業界で半導体不足や中国からの部品が調達できない、稼働できないところが増えてきた。	自動車部分品・付属品製造
大手自動車メーカーの工場が非稼働により出荷量が50%程度であり、中国の上海のロックダウンの影響は予想以上に大きい。また、西三河の農工業用の漏水は幅広く影響が及ぼされており、マイナス要因となっている。	金物卸売
自動車およびオートバイの大幅な新車納期の遅延。	自動車（新車）小売
自動車部品の製造停止や燃料費高騰の影響。	一般貨物自動車運送
上海ロックダウンによる自動車減産の影響。	こん包

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万5,141社、有効回答企業1万1,605社、回答率46.2%)

(1) 地域

北海道	547	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	1,348
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	793	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,969
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	886	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	736
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,368	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	393
北陸(新潟 富山 石川 福井)	603	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	962
合 計			11,605

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	75	小売	飲食料品小売業	92
金融	109		繊維・繊維製品・服飾品小売業	58
建設	1,955		医薬品・日用雑貨品小売業	36
不動産	425		家具類小売業	17
			家電・情報機器小売業	48
製造	飲食料品・飼料製造業	(638)	自動車・同部品小売業	127
	繊維・繊維製品・服飾品製造業		専門商品小売業	196
	建材・家具・窯業・土石製品製造業		各種商品小売業	51
	パルプ・紙・紙加工品製造業		その他の小売業	13
	出版・印刷			
(3,049)	化学品製造業	運輸・倉庫		508
	鉄鋼・非鉄・鉱業			68
	機械製造業		飲食店	11
	電気機械製造業		電気・ガス・水道・熱供給業	16
	輸送用機械・器具製造業		リース・賃貸業	122
	精密機械・医療機械・器具製造業	サービス	旅館・ホテル	44
	その他製造業		娯楽サービス	72
卸売	飲食料品卸売業		放送業	25
	繊維・繊維製品・服飾品卸売業		メンテナンス・警備・検査業	213
	建材・家具・窯業・土石製品卸売業		広告関連業	103
	紙類・文具・書籍卸売業		情報サービス業	508
	化学品卸売業	(1,960)	人材派遣・紹介業	77
	再生資源卸売業		専門サービス業	319
	鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売業		医療・福祉・保健衛生業	117
	機械・器具卸売業		教育サービス業	36
	その他の卸売業		その他サービス業	229
		その他		45
合 計				11,605

(3) 規模

大企業	1,865	16.1%
中小企業	9,740	83.9%
(うち小規模企業)	(3,646)	(31.4%)
合 計	11,605	100.0%
(うち上場企業)	(236)	(2.0%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在)および先行きに対する見通し
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ単価・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢について

3. 調査時期・方法

2022年5月18日～5月31日(インターネット調査)

景気動向指数(景気 DI)について

■TDB 景気動向調査の目的および調査項目

全国企業の景気判断を総合した指標。国内景気の実態把握を目的として、2002年5月から調査を開始。景気判断や企業収益、設備投資意欲、雇用環境など企業活動全般に関する項目について全国2万4千社以上を対象に実施している月次統計調査(ビジネス・サーベイ)である。

■調査先企業の選定

全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI 算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index))は、企業による7段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各選択区分の回答数に乘じて算出している。

選択区分	非常に良い	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	非常に悪い
点数	6	5	4	3	2	1	0
各区分の回答数	N ₆	N ₅	N ₄	N ₃	N ₂	N ₁	N ₀

$$\text{景気DI} = \frac{(\text{各区分点数} \times \text{各区分回答数}) \text{の合計}}{\text{有効回答数 } N} \times \frac{1}{6} \times 100 = \frac{\sum_{i=0}^6 i \times N_i}{N} \times \frac{1}{6} \times 100$$

景気DIは、50を境にそれより上であれば「良い」、下であれば「悪い」を意味し、**50が判断の分かれ目**となる(小数点第2位を四捨五入)。また、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、**「1社1票」**で算出している。

■企業規模区分

企業の多様性が増すなか、資本金や従業員数だけでは計りきれない実態の把握を目的に中小企業基本法に準拠し、全国売上高ランキングデータを加えた下記の通り区分している。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員300人以下」	「従業員20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員50人以下」	「従業員5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」

注1: 中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

注2: 中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3: 上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング

■景気予測DI

景気DIの先行きを予測する指標。ARIMAモデルに、経済統計やTDB景気動向調査の「売り上げDI」、「設備投資意欲DI」、「先行き見通しDI」などを加えたstructural ARIMAモデルで分析し、景気予測DIを算出している。

【問い合わせ先】株式会社帝国データバンク 情報統括部

担当：窪田、池田、杉原、石井 Tel：03-5919-9343 e-mail：keiki@mail.tdb.co.jp

©TEIKOKU DATABANK, LTD. 2022

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。